

2013年5月11日

秋津コミュニティ顧問/埼玉大学・日大非常勤講師
文部科学省コミュニティ・スクールマイスター
岸 裕司

【演題】学校づくり・子育「ち」・まち育てはセットでできる！

～防災も、子育ても、地域活性化も、すべて「学校」で解決！

※秋津の現在 DVD8分 日本TV「真相報道バンキシャ」2008年12月特番用に取材したが放送されなかった映像 矢島文貴記者

※パワーポイント：国の法改定や施策とその意味、秋津実践ほかをスライドで解説

◆時代の変化が生涯学習&福祉コミュニティづくり+学社融合での子育てを要請

◆「学校の憂鬱」を理解しよう+学校にみんなが集い学校を支援しながら生涯学習を楽しもう

◆秋津小学校区 21年の実践—どこでもできる学校+地域が持つ「3つの機能」を活かした生涯学習の推進

①授業を住民と協働して生涯学習 ※学校支援地域本部事業のようなこと

年間開校日の200日間内での「学ぶ」機能を地域と融合=コミュニティ・スクール（「学校運営協議会」制度）

②学校施設を住民と共用して生涯学習 ※放課後子ども教室も住民が学校で自主運営

年間365日間の「学校施設」機能を地域と共用して融合=スクール・コミュニティ（市民による自主運営学校）

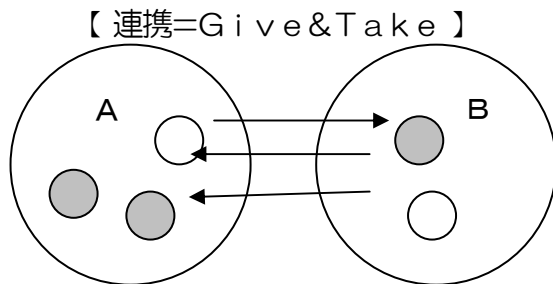
③子縁（こえん）で人と人、学校と地域をつなぐ=みんなが生涯学習を楽しむ学校と地域を創る

◆学校づくり+子育ち+まち育て+福祉コミュニティは「3つの機能」の一体推進でこそ

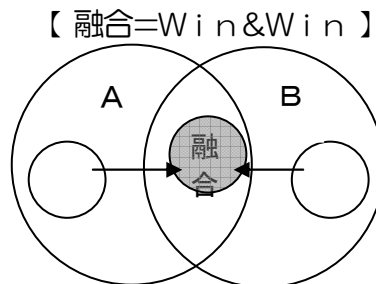
◆推進は、何をするにも「融合の発想=Win&Win」で

【融合の発想】 関わりあう2人以上や機関同士が、主体者A・B双方の目指す目的を同時に果たし、ときにはCという新しい価値をも生むように、はじめから意図して、あることを仕組む発想法（岸の各種の著書より）。

◆【連携】と【融合】の違いの図 「連携」と「融合」は似て否なるもの。使い分けが大切 ◆



|| 「連携」は重ならない
物的・人的な資産の交換の状態
※交換バランスが一方に偏りがちで長続きしにくい



|| 「融合」は意図的に重ねる
物的・人的な資産の共有や協働の状態
※はじめから双方のメリットを仕組むので長続きする

※DVD映画 15分 清水早苗（日本大学芸術学部映画学科06年度卒業制作） 2007年3月

<参考図書> ※岸 裕司の実践書

- 『学校開放でまち育て—サステナブルタウンをめざして』(2008. 1.学芸出版社) まちと学校の持続可能性を長年の実践から証明する
- 『「新しい公共」型学校づくり』(小松都夫編著、岸裕司ほか著 2011 ぎょうせい) 学校と地域との共助による「新しい公共」型学校づくりの理論と実際
- 『「地域暮らし」宣言—学校はコミュニティ・アート!』(2003. 太郎次郎社エディタス) 学校と地域が融合するためのコツを描く実践編
- 『学校を基地にお父さんのまちづくり—元気コミュニティ! 秋津』(1999. 太郎次郎社) おやじの学校参画で学校とまちが活性化する事例編